

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991300245		
法人名	社会福祉法人 悠々の郷		
事業所名	グループホーム錦(ひばり・トキ)ユニット		
所在地	那須塩原市錦町11-6		
自己評価作成日	平成30年1月15日	評価結果市町村受理日	平成30年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人アスク
所在地	栃木県那須塩原市松浦町118-189
訪問調査日	平成30年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様が安心して、笑顔で暮らせるよう職員も笑顔で対応し、一緒に楽しく生活出来るようなホームを目指している。
開かれたホームであるよう施設はせず、職員は注意を払い対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の敷地は広く、全面舗装されていて安全に建物をぐるりと一周できるので、利用者は気軽に戸外散歩をしている。また敷地北側に2ユニット分の畑兼花壇が備えられており、利用者は職員と一緒に手入れをし、収穫した作物は時々食材として活用している。屋内は、通路が広くリビング辺りもゆったりとした造りとなっており、利用者がリビングやソファのある談話コーナー、畳敷きスペース等で、思い思いにのんびりと過ごしている様子が見受けられた。運営推進会議に利用者や家族が参加する取組をしていて、事業所に対する率直な意見を述べてもらうことにより事業所運営への理解が深まるなどの効果が出てきている。また、「錦だより」という広報紙を2カ月に1回の頻度で発行し、家族や関係機関等に送付している。職員の安定的確保ができないため現職員の負担が大きいという課題を抱えているが、職員は管理者とともに、利用者が安心して楽しく過ごせるよう、笑顔を絶やさず細かい点に気を配りながら丁寧なケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念及び基本方針に基づき、管理者と職員が共有して実践するように努めている。	職員は「その人らしく、自分らしく、生きいき」という事業目標を念頭に置き、利用者一人ひとりが望む生活が送れるよう気を配り丁寧なケアの実践に努めている。法人理念や事業目標をケアの場面でどのように具体化していくか検討を重ねているが、まだ実現に至っていない。	「私たちは、利用者の方々に厚い信頼、深い満足を得られるように自己研鑽に努めます」という法人基本理念の実現に向けて、今後も継続して職員間で検討を行い、ケアの具体的な目標を設けて、日常の実践に繋げていくことが期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	二ヶ月に一度の運営推進会議の中で情報交換を行い、自治会や地域との関わりも少しずつ持ってきている。	地区育成会の子ども神輿が事業所まで来て、利用者との交流する機会があるが、それ以外は地区住民との交流はほとんど行われていない。自治会長を通じて交流の機会を広げていくことに取り組んでいるが、なかなか結果に結びついていないのが現状である。	事業所行事への参加呼びかけや、地域の保育園・幼稚園・学校等への働きかけを行う等、今後も粘り強く地域住民との交流実現に向けて取り組むことが望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会長さんと意見交換を行いながら、地域住民との交流が図れるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に一度開催し、ホームの状況報告や意見交換を行っており、出席者(家族や地域包括職員等)の意見を頂けるような環境づくりにも努めている。	市担当職員・地域包括支援センター職員・民生委員・自治会長等が参加して年6回会議を開催し、情報交換や話し合いを行っている。利用者や家族に参加してもらい取組をしており、上手くいかないこともあるが、実施方法や時間・場所等を工夫している。利用者・家族の参加によって、家族の事業所に対する理解が深まったり、利用者や家族の関係性の強化や改善に繋がっている面も見受けられ、徐々に参加による効果が出てきていることが窺える。	今後も利用者・家族の運営推進会議への参加を推進していただきたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通して意見交換の場を設けると共に、生活保護受給者の相談等で福祉課の方とも協力関係を築けている。	市担当職員は、毎回運営推進会議に参加しており、各種情報や運営・ケア等への助言を提供してもらうなど、良好な関係を保っている。また、当該事業所が、経費的に生活保護受給者が入所できるグループホームとなっているため、受給者の入所割合が高く、そうした面からも連絡や情報交換を密に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が禁止事項を理解しているとともに、施設内研修において、身体拘束をしないケアについて学びながら、それらを実践に活かしている。	職員全員が法人の身体拘束防止の研修を受けており、事業所全体で身体拘束となる言動がないよう努めている。不適切な言葉かけ等があった場合は、管理者が注意するだけでなく、職員間でも互いに指摘しあい、適切なケアの実践に努めている。通常玄関は施錠をしていないので職員が注意を払い、帰宅願望のある利用者の気持ちに寄り添うように常に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修等を通して虐待行為とは何か、虐待行為をしない、させないを徹底している。また、同時に職員の対応や関わりについても助言している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	耳にはしているが、職員全員が理解し活用するまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明に心掛けており、疑問点を尋ねられた時はその都度説明し、理解して納得して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡の際に職員は、要望や意見を言って頂けるように信頼関係の構築に努めている。頂いた意見に対しては話し合いを行い、出来る限り対応している。利用者の要望・意見に関しては日常生活の中で、読み取る様努めている。	日常生活場面での利用者との会話を通じて希望や意見を聞き取り、言葉の少ない利用者には職員が積極的に声をかけ、意見や要望等を聞きとるようにしている。家族からは面会・通院付添・電話等の機会に、意見等を引き出すようにしている。出された意見・要望等は職員間で検討し、実現可能なものはその後の運営やケアに反映するよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングで意見を聴いたり、個別面談で意見をもらい、反映できるよう努めている。また、法人役員と管理者および職員との個人面談も実施している。	毎月ミーティング(前半は2ユニット合同、後半はユニット毎)を行い、情報の共有化を図るとともに、各職員が運営改善の提案やケアの見直し等について意見を自由に述べあい、検討をしている。管理者は年度当初に職員一人ひとりとの面談の機会を設け、意見や要望等を把握している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との面談を行い、意見交換をしながら出来るだけ働きやすい環境になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の内部研修に参加してもらうと共に、外部の研修にも出来る限り参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	栃木県北介護事業所研修会へ参加し交流を深めるとともに、情報交換を行いながらサービスの質を向上させる取り組みを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化は入居者にとってはとても大きな事。安心して頂けるよう寄り添い、日常生活の中で何を欲しているのか情報を得て、その要望に応じて生活出来る様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話連絡の際、家族の要望や困っていることを話して頂けるような関係づくりを目指している。また、運営推進会議にも参加していただき、情報交換をしながら信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際に利用者・家族の現状況、要望などを伺い、ホームで提供できる支援を伝え、その方に合うサービスを提案させて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ニーズに合わせ本人が出来る事を行ってもらい、ここが自分の居場所だと思って頂けるよう支援している。出来ない場合でも、職員と一緒にいることで共有しながら生活出来る環境を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出、外泊等に制限を設けず、家族との時間を大切に、何か問題が起きた時には、家族と一緒に問題解決に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時、馴染みの関係があった方が少ないのが現状です。ただ、家族や友人が面会に来られた時は居心地の良い空間を提供出来る様心掛けています。	馴染みのある関係者のいない利用者が多いのが現状で、面会等は限られた利用者となっている。家族や親せき等の面会の際は、談話コーナーや居室を利用するようにして、気兼ねなく楽しく過ごしてもらうよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を理解し、分かち合えるよう職員が見守っている。そして出来るだけ孤立する事がなく生活出来るよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族からの相談や移動後の施設からの問い合わせに対しても対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で希望や意向を聴きとるようにしている。困難な場合は、外出やレク等での個々の情報を集めて、表情や行動から判断している。また、その判断が違うと感じたら、再検討し対応している。	ほとんどの利用者が通常の会話が可能なので、日常生活の中で、意見や要望等を聞き取っている。無口な利用者には興味のあるような話題を職員が持ち掛け、そこから話を広げて希望等を引き出すよう工夫している。出された希望や要望等は、職員が検討した上で出来るだけ実現するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、入居後も家族には以前の生活ぶりについて教えて頂き、サービスに活かしていけるよう努めている。また、これまで慣れ親しんで使用していた食器や家具なども持参して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定やリハビリ体操、日常生活を観察し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者と家族の希望や現状を把握し、職員間でのミーティングを行い介護計画やモニタリングを作成している。	介護計画作成担当者は、利用者や家族からの意見や要望・担当職員の意見・ミーティングでのケースカンファレンス結果・モニタリング結果等をもとに介護計画案を作成し、担当者会議で検討した上で、最終的な介護計画を作成している。また、利用者や家族等の状況の変化に応じて、随時見直しを行い、現状に即した介護計画となるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入や申し送りノートを活用し、ミーティング等で情報を共有している。その都度実施や見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれたニーズに対しては、話し合いを行い、その方に合った出来る限りの対応で対処している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出や買い物、通院等で地域資源を活用し、安全で豊かな生活が出来る様に、職員は常に注意をして対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望に応じ相談・情報共有を行い受診して頂いている。また、ホームと医療機関との情報共有も行っており、希望に応じた対応が出来るように努めている。	入居時に、今までのかかりつけ医に家族付添で受診するよう家族に伝えている。独居などの場合は職員が通院支援を行っている。家族付添の通院時には、体調等の変化の記録とバイタルをコピーし状況説明を書いたメモを家族に渡している。受診結果は申し送りノートに記載し職員全員が情報を共有している。夜間などの急変時は管理者と連絡をとりながら救急車を呼んで対応している。また、個人契約で訪問リハビリを受けている利用者もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設に看護師は常駐していないが、通院時等に情報の共有をしており、その際に気付いたことは事は相談できる体制をとっている。また問題が起きた時には、法人内の看護師や訪問看護の方にも相談し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先のソーシャルワーカーや看護師とは密に連絡を取り合い、情報交換や相談をしている。また、出来る限り病院へ行き、状況の確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	少しの変化から、家族とは報告・相談をするようにしている。家族の希望を把握し、ホームで出来る事を理解して頂き、困難ケースに関しては医療機関に相談しながら対応している。	入居時に、医療行為(点滴、経管栄養、インシュリン注射など)が必要になった場合、看護師がいないこともあり事業所での対応は難しいと家族に伝えている。重度化した場合は、その都度事業所としてできること(褥瘡のケアなど)とできないことを家族に説明をし、できる限り対応しようとしている。職員の理解を深める為に重度化や終末期の対応について研修を行っている。	利用者、家族が事業所での看取りを希望した時や利用者の状態が大きく変化した時に、事業所としてどのような支援ができるか明確にして、終末期支援の体制を整えることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等では学んでいるが、実践的な定期訓練は出来ていない。日常生活の中で起こる急変時や事故発生時の対応についてはマニュアルに沿って対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を実施しており、避難場所や避難方法などを確認している。また、自治会長とも連携を図っており、協力体制は築かれている。	年5回防災訓練を実施しており、そのうち2回(夜間想定を含む)は消防署立ち合いとし、通報訓練では火災警報器の取り扱い、避難訓練では安全な避難ルートの確保、消火訓練では消火器の保管場所、操作方法の確認を行っている。スプリンクラーや緊急連絡装置は設置されている。夜間想定訓練では少し時間はかかるが問題なく避難誘導ができており、出火場所によって誘導する利用者の優先順位などを検討している。備蓄品は水や乾物やお米などとともに、停電時に使えるように石油ストーブ、カセットコンロを揃えている。	火災や災害時に利用者の見守りなどの地域住民の協力が得られるように、日頃からの働きかけに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修やミーティング等で、人権の尊重、言葉遣いや対応について指導している。プライバシーを尊重し、さり気ない声掛けが行えるよう努めている。	名前の呼び方は本人や家族に確認し、利用者との会話は家族が聞いても嫌な思いをしない声掛けに努めている。職員の気になる言葉遣いなどはその都度管理者や気付いた職員が注意している。家族等の訪問時は周りの目がない居室や談話室で面会してもらっている。職員のトイレへの誘導、失禁時などの支援では、耳元で小さな声でさりげなく伝えている。トイレのドアは閉め、リハビリパンツやパッド交換時には、周りの人に気づかれないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ある程度の方向性は決めるが、その中で希望や決定は本人にして頂き、決められない時は表情を見ながら判断するよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で本人がどの様に暮らしたいのかを観察しながら見つけ、入居者が希望を伝えやすい環境を作れるよう努めている。また、入居者の行動に関しては、危険の無い限り制限しないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方に合わせた整髪や散髪が出来る様に対応している。また、本人と家族の希望を把握し、買い物の際は本人に選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る限り入居者の要望を取り入れメニューを作っている。また、旬のものが入った時などはメニューを変え柔軟に対応している。食事や食後の下膳、片付けも出来る限り一緒に行っている。	職員が利用者の希望を聞きながら献立を立て調理している。食材は、業者の宅配だけでなく利用者と一緒に買い物をに出かけたり、事業所内の畑で作った野菜や、家族が差し入れてくれた季節の野菜も利用している。利用者は、下膳等できることを手伝っている。また、バイキング形式で食事したり炭酸饅頭を作ったり、季節感を味わえる行事食を用意している。行事外出時には、利用者の希望に沿って個々に食べることを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一緒に食事をする事により、一人ひとりの摂取量や食べ方が把握でき、変化があった時には申し送りノートにも記載し職員全員が情報を共有できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状況に応じて、歯磨きや入れ歯洗浄剤などの口腔ケアを行っている。その際には、出来る限り残存機能を生かした支援に心掛けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人にストレスが無いようにその方に合った対応をするとともに、その方の排泄パターンにあわせて排泄の促し等も行っている。	排泄チェック表を見ながら個々の排泄パターンを読み取りトイレに誘導している。利用者の表情やサインを見落とさないように声のかけ方を工夫しながら見守り支援している。リハビリパンツから布パンツに移行できた利用者や、気持ちに寄り添いながら気長に声掛けすることでパッドを自分で交換することができるようになった事例もある。夜間は、ポータブルトイレを居室に備えたり、定時に利用者へ声掛けして転倒しないように見守りをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のリハビリ体操や散歩などを取り入れたり、乳製品や適度な水分補給を行う事により、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望にすべて合わせる事は難しいが、出来る限り訴えに対応できるよう心掛けている。	浴室は広くて、三方から介助できる浴槽があり、脱衣所と共に床暖房になっている。重度化した利用者の入浴は、補助器具を使いながら職員2人で対応している。週2、3回午後の時間に入浴してもらっており、利用者の入浴時間希望、長くゆっくり入りたい希望、同性介助希望等があれば、利用者の意向に沿って対応している。入浴時に利用者の体の様子を見ながら保湿剤を塗布したり、傷や肌のトラブルがないかチェックをして、気づいたことはノートに記載して職員で共有している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具の清掃、室温や明るさにも配慮して、休息したり安眠できる環境づくりを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが薬の内容を把握し、変化があるときはご家族様と病院とに状況報告を行い、情報を共有できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに合った気分転換を行っている(買い物や貼り絵、畑仕事など)。また、みんな楽しい時間を共有できるように、レクやカラオケ、季節に合った行事なども工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限りその時の希望に対応しているが、無理な時は後日対応している。ご家族様の協力もあり、外泊や旅行にも出かけられている。また、訴えの無い方も定期的に外に出て、気分転換できるよう支援している。	利用者は、事業所の周辺地区の散歩に出かけたり、広い敷地内を自由に歩いて気分転換をしている。利用者の希望に沿って担当職員と食事に出かけたり、食べ物や化粧品を買いに出かけており、家族と一緒に温泉や美容院に出かける利用者もいる。うまく声に出せない利用者には、家族に今までの生活の様子を聞いたり本人の様子から職員が意向等を読み取り、利用者の気持ちに寄り添うようにしている。定期的に初詣や花見、紅葉狩りなど季節に応じて外出を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、ご家族様と相談して管理の方法を決めており、金銭管理の困難な方は管理させていただいている。また、買い物の際の支払いについても、支援しながら行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特別な理由がない限り、電話と手紙のやり取りは自由に行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには、利用者様の作品や四季折々の物を飾るとともに、不快とならないよう工夫しながら空間づくりを行っています。	玄関には、利用者が靴を履きやすいようにゆったりとした座りやすい椅子が置かれている。ダイニングリビングは、外光が十分入って明るく台所から利用者の様子がよくわかる造りになっている。利用者が作ったひな人形やお花が棚に置かれ、壁には利用者の写真や毎月職員と利用者が一緒に制作したカレンダーが飾られている。また、畳スペースは利用者がお昼寝をしたり洗濯物を畳んだりすることに利用しており、利用者がゆったりと居心地良さそうに過ごす姿が見受けられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースでは、同テーブルの方とお話されたり、個人の居室にて気の合う方と楽しい時間を過ごされている。一人になるようなときは職員が対応し、孤立することが無いような環境づくりを心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に使い慣れた物を持ってきていただいて、なるべく馴染みの物が目に触れるような環境を作っている。	各居室には、ベッド、カーテン、チェスト、洗面台、空気清浄機、ナースコールが備え付けられている。使い慣れた馴染みの物でその人らしく居心地の良い空間になる様に、家族に協力をお願いしている。居室は、利用者の思い思いの部屋作りになっている。居室の掃除は、利用者と一緒にすることもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に表札を着けたり、トイレの表示を大きく目の高さにするなど工夫している。理解困難な方には、さりげなく声掛け誘導をして残存機能をいかせるように対応している。		